

# “スローライフ・イン・にーよん” フラワー部会の活動

スローライフ・イン・にーよんフラワー部会長 うの としみつ 宇野 俊光

“スローライフ・イン・にーよん”のフラワー部会は活動を開始するにあたり、次に記す趣意を実行委員会で確認しました。

## フラワー部会が取り組む趣意

都市化が進み、まちに潤いが減少した北区の中心地、北24条周辺の歩道に花を飾ることで行き交う人々の心に安らぎをもたらし、まちのイメージアップを図ると共に、北区全域に『花いっぱい運動』が広がることを期待したい。

また、無法化した歩道駐輪を無くし、安心できれいなまち並みをつくり出したい。

この趣意に基づき、まず北24条周辺の歩道に花プランターを置き、まちを飾る運動を開始しました。しかし、実作業に取り掛かってみますと、プランターを設置するにも、停めてある自転車が邪魔になって、設置することができませんので、並行して「駐輪対策」にも取り組みました。

次に、より多くの人達に“スローライフ・イン・にーよん運動”を知ってもらうために「ガーデニングコンテスト」を開催することにしました。

この活動が徐々に北地区全域に知られ、5年目を迎えた今日では、各地域で歩道に花プランターが置かれ、まちに彩りを添えている光景が見られるようになったことは、非常に喜ばしいことであると同時に、フラワー部会が目指す目的に一步近づいた感じがします。

今後ともこれらの活動と併せて今年度から始めま

した《種から育てるプランター栽培コンテスト》を開催していきたいと思います。

## 《種から育てるプランター栽培コンテスト》の開催

平成20年6月20日“石狩支庁花ネット”のメンバーで、ご自身もオープンガーデンを開いておられました瀬戸均さんに講師をお願いして「種から育てる栽培の講習会」を開催すると同時に、コンテストの説明を行い、参加者に申込みをして頂き、育て方を書いたパンフレット、ヒマワリの種、土を入れたプランター、液体肥料などを提供しました。当日は約80人の参加があり、熱心に質問される方も多く、予定時間を大幅に延長しなければならないほど盛会でした。



講習会場風景

## 審査の写真撮影

講習会の時に応募された方は67人でしたが、コンテストへの参加者は54人でした。

表彰式を行う野外コンサートの開催日が9月20

日に決定していたので、この日から逆算して、9月5日に幌北連町エリア、北24条地域、北29条地域の3カ所に分かれて、一斉に花の写真撮影を行いました。

写真を撮りに行った日がちょうど見ごろになっていた所や、花の盛りが過ぎてしまった所、まだ咲いていない所があるなど、かなりバラツキはありましたが、それぞれの工夫や苦労話を聞かせていただきながらの撮影は、非常に参考になり、楽しいものでした。

### 審査状況と表彰

先に記しましたように、9月5日、3方向から撮影した54人分の写真162枚を、9月10日、講習会の講師をお願いしました瀬戸均さんを審査委員長に、7名の委員で審査をしました。

種から育てたとはとても思えないほど見事なものがあつたり、生け花のように彩りよく咲かせた素晴らしい作品もあり、審査員全員が「等級をつけるのはとても難しいので、全作品を優秀賞にして表彰しよう」ということで意見が一致し、審査を始めました。しかし、入選させたい作品が数多く、事務局と協議して賞を増やすことにしました。それでも選考中にさまざまな意見が出て、まとまるまでにかかなり時間を要しましたが、全員一致で、12名の作品を優秀賞に選出しました。

9月20日、白楊小学校白楊バンドの生徒たちと、北辰中学校吹奏楽部の生徒たちが出演した「野外コンサート」の合間に、表彰式を行いました。



審査後、集まった町内の人たちと記念撮影

## プランターを使っ ての花の栽培

種から育てるプランター栽培コンテストの開催が決まったとき「部会長の私が見本を見せるぞ」と意気込んだまでは良かったのですが、実のところ、プランターを使って花を種から育てることは初めてなので、少しの期待と大きな不安を抱きながら取り組みました。

講習会で習ったことやメモ書きを見ながら、腐葉土と肥料を混ぜた土をプランターに入れ、水をタップリやってから上面に2本の溝をつけ、その溝にヒマワリの種を2粒ずつ約5cm間隔に植え、もう一つには百日草の種を、ばらまくようにまきました。

ヒマワリは大粒なので楽でしたが、百日草は、吐息でも飛びそうな極小の種なので苦労しました。それからの毎日はプランターを見るのが楽しみになり、家族から「あまり見つめると芽が出ないよ」と冷やかされるありさまでしたが、約2週間ほど、黒い土の固まりを押し除けるようにして一つまた一つと、淡い緑色をした小さな芽が出てきたのを見た時は、本当に感動しました。

その後、か細かった茎がマッチの軸ほどに太くなり、丈も5cmくらいに伸びて、幼い芽が葉になりその葉が2枚になったころ、間引きと同時に別のプランターに一本ずつ2列に植え替えました。

しゃがんで行う作業なので、腰が痛くなるやら



表彰状を持ってVサイン！

審査は公正に行いましたが、撮影した時機が一番の見ごろになった作品が有利になったことは否めないと思います。なにとぞご容赦下さいますよう、お願い申し上げます。

足がしびれるやらで、後が大変でした。

また、植え替えの作業が終わった後、間引きした茎の処理を巡って家族と意見が分かれ、一悶着しましたが「捨てるのがかわいそうだ」ということで、全部、近くのます花壇に移植しました。

自分で種をまき水をやって育てた植物が、こんなにもかわいくなるとは！思いもよらぬことでした。また、隣の家と同じところに同じ種をまいたのに、隣のほうが成長がよく「花が咲いた」と聞いて見に行き「日当たりの違いだ」と思い込み、朝夕、プランターを移動するなど、変なところで對抗意識を燃やしたりして「俺もまだ若いなあ...」と、一人で苦笑したこともありました。

しかし、お隣の花は少し早く咲きすぎて、審査の時には見ごろは終わってしまい、残念な結果となり、私の所は運よく一番良い時期になっていたので入選し、申し訳ないことになってしまいました。

また「追肥をしたほうが良い」と聞いたので、二つあった百日草のプランターの一つに、100円ショップから買って来た肥料を、使用説明書もろくに見ないで与えたところ、1週間位したら葉に白い斑点ができてしおれてしまい、全滅させてしまったこともありました。

一方、間引きして捨てるのがかわいそうだとます花壇に植えたヒマワリと百日草が、プランターで大事に育てたものより元気はつらつとしていて、初霜が降りるころまで咲いていたのにはビックリしました。



種から育てるプランター栽培表彰式風景

前述のように、失敗したり驚いたり、年がいもなく感動したりしたプランター栽培でしたが、このたびの体験から「花を楽しむのであれば種から育てなければ本当の楽しみや感動は分からない」ということ。また「花は手をかければかけただけ応えてくれるものだ」と聞いていましたが、本当であることが分かりましたし「もっと良くしよう」と欲を出して、肥料をやりすぎても駄目なことも実感しました。また、花がしおれてきたらこまめに摘んでやることで、さらにたくさん咲くようになるばかりでなく、花が大きくなることも、実際にやってみてよく分かりました。

このページをご覧になった方も、ぜひプランターで種から育て、私が体験した感動を味わってみてはいかがでしょうか！

なお、フラワー部会では、コンテストに参加する事を条件に、北地区と幌北地区の住民で希望される方に無料でプランターを提供しますので、事務局に申し込んで下さい。

先着順で、プランターの在庫が無くなり次第終了させていただきます。

申込先

北24条商店街振興組合 ☎011-707-3027

### (1) これまでの成果と今後の課題

“歩道を花で飾る運動”も5年目を迎え、北24条周辺の美化に寄与するばかりでなく、北区全域に広がりを見せてきたと同時に、市内全域から注



種から育てて寄せ植えした作品

目されるまでに発展してきたことは“スローライフ・イン・にーよん運動”の目的でもありましたので、何よりの成果であったと思います。

### (2) コンテストの審査時期について

多くの参加者から「審査する時期がズレているのではないか」という声がありましたので、今後、審査する時期について専門家の意見も聞き、より良い方法を考えていきたいと思っています。

表彰状につきましては、入賞した作品の写真と賞状を一体にしたパネルが大変好評でしたので、今後もこの形態を踏襲していきたいと思っています。

### (3) 歩道駐輪について

今年も北区土木部に協力して、4月から9月まで、毎月第1水曜日と第3水曜日に、啓蒙を兼ねて撤去警告のビラ付けを実施しました(土木部では10月以降も行っています)。

この作業に従事して、北24条西3丁目から西4丁目の左右の歩道に停めている自転車は、一日約250～300台位あり、これに北23条西4丁目北洋銀行横の駐輪場や、その東側の駐輪場、北24条西3丁目の駐輪場を加えると、常時1,000台位が周辺に停めていることが分かりました。

同時に実際に撤去された自転車は、一回につき15～20台位であることも分かりました。

また、冬期間も数多く放置しており、歩行の妨げになるばかりでなく、歩道の除雪ができない等



歩道駐輪の実態

の障害が起きていることも事実です。

この問題は、スローライフ・イン・にーよん運動を開始した時からの課題ではありますが、残念ながらいまだに解決のめどがたっていません。

しかし、歩道本来の目的である“歩行者が安心して歩ける通路”にするために、これからもあきらめることなく、行政に協力して取り組んでいきたいと思っています。

### (4) 運動を継続していくために...

私たちフラワー部会の活動は、土を扱ったり運搬作業をすることが多いことから、仲間の間では「体が丈夫で力持ちでなければ務まらない」と、冗談まじりによく言われます。

また、収入がない事業であることから、経費の全てを行政の各種助成と各団体の寄付、多くのボランティアの皆さんの力をお借りして、活動を続けてきたのが実情です。

これからも活動を継続していくためには、従事者の層を厚くする努力と共に、活動経費を安定的に確保する方策について、考えなければならないと思います。

### (5) フラワー部会の活動紹介の終わりに...

“スローライフ・イン・にーよん運動”とともにフラワー部会が、今日まで活動を続けてこれましたのは、北区役所、北連合町内会、幌北連合町内会、北地区コミュニティネットワーク会議、札幌サンブラザ、私たちの活動にご支援、ご協力を頂いております多くの団体、何かあるとすぐに駆けつけ、協力を頂いています各単町の会員の皆さまのおかげであります。この紙面をお借りしまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

今後、従事者の高齢化や資金面などで、厳しい事態も予測されますが、皆で知恵を出し合って解決し、継続するべく努力してまいりますので、これまで同様のご指導・ご鞭撻べんたつをお願い致します。